

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

市原市保健福祉部
共生社会推進課
作田

【背景】

- ・団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行うことが求められている。

【目的】

- ・医療と介護の切れ目がなく、誰もが安心して在宅療養ができる市原市を目指して、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進すること。

【市原市在宅医療・介護連携推進会議及び作業部会】

- ・本事業を推進するために医療・介護の専門職等で構成される市原市在宅医療・介護連携推進会議及び作業部会（ACP※普及部会、看取り介護普及部会、対応体制部会）を設置している。各部会の取組内容は以下の通りである。

※ACPとは、もしものときのために、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、その家族や近しい人、医療・介護関係者が繰り返し話し合いを行い、共有する取組のことで、本人の希望や思いが医療及びケアに反映される

部会名	取組内容
ACP普及部会	ACPについて、市民の理解を向上させていくため、啓発活動など、普及について検討、実施します。
看取り介護普及部会	看取り対応の強化のため、介護保険サービス（在宅・施設）と医療（訪問看護師等）が連携し、ACPや看取り対応の強化を促進するための方策などを検討します。
対応体制部会	消防局との連携を強化し、早期の介入や支援が必要な人の状態変化に対応する体制を構築する。

【これまでの主な取組内容】

- ・令和2年度中に「在宅医療・介護連携推進事業の手引きver3」（厚生労働省老健局老人保健課）において、在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面として、①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取りを意識した取組が必要と示されました。以下に場面ごとのこれまでの主な取組内容を紹介します。

場面	これまでの主な取組内容
日常の療養支援	<ul style="list-style-type: none">・ ICT情報共有システム（バイタルリンク）の導入、手引き等作成。手引き等を市ウェブサイトへ掲載。・ 在宅医療等資源マップの市ウェブサイトへの掲載。・ 在宅医療に関する市民への周知（市ウェブサイト掲載、リーフレット配布）・ 認知症お役立ちガイド（認知症ケアパス）の配布や認知症サポーター養成講座の開催
入退院支援	<ul style="list-style-type: none">・ 退院及び通院する高齢者へ、地域包括支援センターを周知するリーフレットを配布・ 市原保健医療圏域入退院支援ルール周知（市ウェブサイト掲載）・ 在宅医療・介護連携支援相談窓口設置
急変時の対応	<ul style="list-style-type: none">・ ひまわりシート（救急医療情報キット）の作成・ ACP普及のため、医療・介護専門職を対象に、市ウェブサイト動画配信研修・ ICT情報共有システム（バイタルリンク）の運用・ 状態悪化時の対応体制の構築の必要性について、医療・介護従事者へアンケートを実施
看取り	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者施設における看取りに関する状況調査を実施・ ACP普及のため、令和2年度私の未来設計図の作成と配布・ ACP普及のため、医療・介護専門職を対象に、市ウェブサイト動画配信研修・ ひまわりシート（救急医療情報キット）の導入

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

【令和3年度多職種連携研修（やってみよう！人生会議（ACP））について】

- (1) 目的：医療・介護の専門職が人生会議の実践に繋がる機会となり、また、医療職と介護職がお互いの大切に行っていることや仕事内容等の理解を深め、多職種連携の促進を図るために研修を実施しました。
- (2) 対象者：医療・介護・福祉に関わる専門職
- (3) 講師：高橋在也氏（ピアニスト、千葉大学大学院 医学研究院 医学 教育学）
 - ▶ 日本社会におけるエンド・オブ・ライフケアの文化的問題と今後の方向性を模索する研究に取り組まれており、教育学の視点からACPの実践方法を解説いただきました
- (4) 話題提供者：潮礼佳氏（看護師）、佐久間勇人氏（脊髄小脳変性症を治療中の方）
 - ▶ 潮氏と佐久間氏との人生会議（ACP）について御紹介いたします。

※専門職の方が時間を問わずACPについて学べるよう、研修動画を市ウェブサイト上で公開しました。



市原市ホームページ:トップページ > 健康・福祉 > 医療・感染症 > 在宅医療介護連携推進

ACP（人生会議）とは

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

【私の未来設計図について】

- (1) 作成目的：ACPの普及・啓発のための媒体として作成
- (2) 内容：自分で判断ができなくなった時に、自分らしい生き方を選択できるよう、介護が必要になった時、終末期医療が必要になった時、亡くなった後のこと、大切な人へのメッセージなどを記載するものです。
- (3) 配布場所：各地域包括支援センター、共生社会推進課
※市原市認知症対策連絡協議会、市原市在宅医療介護連携推進会議の監修



大切な人へのメッセージ

◆伝えておきたい友人のこと

◆伝えておきたい家族のこと

◆伝えておきたい自分のこと

病気の時は

◆使用している薬
 ある ⇒ ●お薬手帳は ある ない
 ない

◆かかりつけ医
病院名 _____ 医師名 _____

◆ケアマネジャー
事業所名 _____ 氏名 _____

◆人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)
万が一のときに備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすることを「人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。
これらの話し合いは、もしもの時にあなたの信頼する人があなたの代わりに治療やケアについて難しい判断をする場合に重要な助けとなります。

話し合いの進め方 (例)

病気等で人生会議を行ったときは、その考えを次のページに書いておきましょう。また、考えが変わったり再び人生会議を行ったときにも、その考えの変化を残しておきましょう。

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

【バイタルリンクについて】

(1) **導入目的**：在宅療養中の患者の希望する療養生活を支えるために、状態変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかな情報共有を行うため

(2) **特徴**：多職種間でリアルタイムな情報共有、多職種間での相談や意見交換が可能

(3) **登録状況（令和4年5月20日現在）**

①管理者

- ・8か所(市原在宅診療所、小野木医院、奥田外科病院、五味クリニック、仁天堂医院、寺嶋医院、千葉県循環器病センター地域医療連携室、帝京大学ちば総合医療センター地域医療連携室)

②利用者

- ・医療機関 19か所、歯科医院 3か所、薬局等 25か所、訪問看護事業所 19か所
居宅介護支援事業所 37か所、地域包括支援センター 8か所、リハビリ専門職等 10か所
訪問介護・通所介護事業所等 10か所、その他 5か所

合計（管理者+利用者）：144か所

(4) 今後の予定

①更なる情報連携体制の拡大

[登録を希望される方は共生社会推進課まで御連絡をお願いします。](#)

②ワクチン接種に関する情報提供

③災害時の停電等の情報提供



活用イメージ図

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

【ひまわりシートについて】

- (1) 導入目的 : 在宅で療養中の市民の急変時や状態悪化時にも本人の意思が尊重された (ACP) 対応が行われること。
- (2) 配布対象 : 在宅で療養中の市民でかかりつけ医等が必要を認めた者。
- (3) 配布を行う人 : 医療・介護の専門職
- (4) 使 い 方 : シートを記入しボトルに入れ冷蔵庫に保管
- (5) その他の用途
 - ①熱が出た場合等で本人やご家族が緊急時の対応を見て慌てずに対応できる
 - ②救急隊がシートを見て本人の希望内容を考慮し、迅速な救急活動へ活かすことができる。
 - ③緊急搬送の際にシートを病院に渡すことで重要な情報を的確に伝えることができる。



ひまわりシート(救急医療情報キット)【基本情報】

ご本人の情報		【記入日】 年 月 日	
ふりがな		生年月日	
氏名		年 月 日	
住所			
備考			
緊急時の連絡先 (※) 家族・親族に限らず、必ず連絡の取れる方を記入			
家族または親族など①(※)	氏名	続柄	
	電話		
家族または親族など②(※)	氏名	続柄	
	電話		
かかりつけの医療機関①	名称	診察券番号	
	電話		
かかりつけの医療機関②	名称	診察券番号	
	電話		
かかりつけの薬局	名称		
	電話		
訪問看護師	名称		
	電話		
ケアマネジャー	名称		
	電話		
持病	ある() なし		
アレルギー	ある() なし		
その他			

●持病やアレルギーのない方は必ず「なし」に○をつけてください。
●その他の欄は、ペースメーカーや人工透析(透析)など救急隊に伝えたいことを記入ください。

ひまわりシート(救急医療情報キット)【緊急時の対応方法】

【記入日】 年 月 日 バイタルリンク登録 有 ・ 無

このような症状の場合	このように対応する

上記対応内容について、かかりつけ医に確認しました。(年 月 日)

かかりつけ医療機関名	
緊急時の連絡先	
かかりつけ医の署名(推定)	

同意欄	① 上記の内容について理解し、対応方法に同意します。
	② 本シートに記載されている情報を、救急隊及び搬送先の医療機関等や、その他の救援者及び支援者が、救急医療や災害時に活用することに同意します。
本人の署名(必須)	

署名が難しい場合は代筆者が署名し、代筆者氏名、続柄を記入ください。	
代筆者氏名	続柄

ご家族で上記内容をご理解された方がいらっしゃる場合は、ご署名ください。	
ご家族の署名	続柄

【救急搬送先の医療機関の皆様へ】本シートは活用後ご本人に返却ください。

* ステッカーの貼り付け場所・ケースの保管場所



ステッカーは、ヘルパー・救急隊などが分かるように貼り付けましょう。
①「玄関ドア 内側」 ②「冷蔵庫 外側の右上」

市原市在宅医療・介護連携推進事業について

【令和4年度各部会での方向性】

部会名	令和4年度の方向性
A C P 普及部会	A C P を若い方へ周知する方法を検討していく。
看取り介護普及部会	高齢者施設で看取りを進めるために、研修等を検討していく。
対応体制部会	医療、介護、消防局の連携方法を検討していく。

何か気になることがありましたら、御連絡下さい。
今日はお時間をいただきましてありがとうございました。

市原市役所 共生社会推進課 作田

電話番号 0436-23-7605